

ホタル学校だよ！

ホタルの光、いつまでも ゲンジボタルの幼虫放流式



2017 年 3 月 26 日（日）鳥川でゲンジボタルの幼虫の放流式が行われました。主催の鳥川ホタル保存会をはじめ、豊富小学校の生徒や関係者の皆様が一堂に集い、100 名を超える盛会となりました。



自由研究を発表する鈴木君

式典では、28 年度のホタルマスターファミリー講座に参加した美合小学校ホタル飼育部の鈴木陽太君による自由研究の発表が行われました。

美合小学校でも毎年美合小の前を流れる山綱川へホタルの幼虫を放流していますが、数はあまり増えていません。鈴木君は鳥川と山綱川の違いを調べ、山綱川

でホタルを増やすための提案をまとめました。堂々とした発表に会場からは大きな拍手が起こりました。

続いては外に移動して幼虫の放流です。ホタルの幼虫とカワニナの入ったコップを一人一つずつ受け取り、願いを込めて鳥川に放流をしました。

そしてみなさんお待ちかね、猪汁の振る舞いです。前日から保存会の方が仕込んだ鳥川特製の味は大好評！子どもも大人もおながいっぱいになるまでおかわりをしていました。

まもなくホタルシーズン。たくさんの人の思いが詰まったホタルの幼虫たちは、きっとまた素晴らしい光の舞を見せてくれることでしょう。



鳥川特製の猪汁は大好評！

ホタル学校歳時記（No.13）

若齢幼虫の放流と 河川のカワニナ管理

最近ゲンジボタルの若齢幼虫の放流が多くなってきた。飼育する児童の負担軽減や学校行事の関係もあり、若年幼虫の放流が愛知県下でも増加中である。放流する河川が健康で、カワニナが十分供給されるのであれば心配ないが、普通の河川は食糧不足のため若齢放流は難しい。

そこで、放流河川に飼料の散布と母貝の補給を行い、カワニナを良好な状態にする必要がある。稚貝が生まれだす 3 月前から飼料の補給を実践したい。1 週間に 2 回以上与えるのが理想である。



生ごみを発酵させた飼料

飼料としては、普通「ボカシ飼料」と呼ばれる、カツオのダシがらや食材の残り、野菜くず等を混合して発酵させた飼料を与える。カワニナの食いつきが良好であり、稚貝の生産も抜群である。こうした条件を整えた河川なら、放流幼虫も安心して生活ができるであろう。

（ホタル学校名誉校長・古田忠久）

ホタルクイズに挑戦！

ゲンジボタルの幼虫たちは一体どこでさなぎになるでしょう？

川の石の下

土手の土の中

木の葉の裏

桜・ミツマタまつりレポート

4月9日(日)、岡崎市ホテル学校をメイン会場として「桜・ミツマタまつり」が開催されました。鳥川町の鳥川ホテル保存会と鳥川を遊びつくす会、千万町町のじさんじの会と千万町・木下ふるさとづくり委員会の4団体のコラボレーションによる、額田の山里の自然を1日楽しむイベントです。



鳥川会場ではあいにく前日までの大雨のため予定されていた喜桜山トレッキングは中止となり鳥川周辺のウォーキングに切り替えましたが、川沿いの桜がちょうど満開を迎えており参加者の目を楽しませました。ホテル学校館内では自然素材のクラフト体験が行われ、親子で作品づくりに夢中になる様子が見られました。

一方、鳥川からバスで移動する千万町会場ではミツマタの群生地を訪ねるウォーキングを実施。かつて紙の原料として育てられたものの一度は廃れてしまったミツマタ。その後杉林となっていました。間伐をして明るくなったことで再びよみがえりました。谷一面に咲くミツマタの花にはみなさん大変感動され、春の里山の魅力を満喫できた1日となりました。



星が見える環境とは？ 木づかいが豊かな森を育てる



先日、ホテル学校の星空観望会に参加された方が「岡崎市街ではこんなに星が見えない」と言ってみました。原因のひとつは照明が多く眩しいため瞳が閉じてしまい、弱い星の光を感じ取れなくなってしまうため。もうひとつは空気中の浮遊物に町明かりが乱反射して空の背景にもやがかかったように白っぽくなり、星とのコントラストが少なくなるためです。

左の写真は川面にいるホテルの視点で写したものです。星が見える鳥川の空も、もし市街地のような照明があったなら(右の写真) 星どころか交尾相手を探すことすら出来ず、ほどなく絶滅してしまうでしょう。人間もまた同じ生態系の一部。決して無関係ではありません。いつか街中でも星が見える環境を取り戻した時、街中にもきっとホテルが飛ぶことでしょう。

(ホテル学校・神谷)

3月11日(土)にホテル学校で薪を使ったカレー作り体験を行いました。日ごろはできない体験は参加者に好評でしたが、昭和中ごろまでは薪での調理やお風呂沸しはどの家でも当たり前だったはずです。

里山荒廃の根本には石油・コンクリート・金属製品が出回り木材の出番が減ったことがあります。最近では木材利用を見直す動きが広まり、岡崎市内でも公共施設の木質化が進んでいます。薪ストーブも人気で利用が増えてきています。安さと利便性ばかりを追いかけてきたこの50年。今度は50年後の未来のために、森と共生する暮らしをもう一度見直してみませんか？

(ホテル学校・唐澤)



ホテルクイズ答え合わせ

土手の土の中

ゲンジボタルの幼虫は土手などの土の中に潜ってさなぎになり、1か月ほどかけて成虫になります。